

事に其業務に勉勵せし度爲念此旨場示也  
や

大正十年十月廿八日 横濱船渠株式會社

上京ニタル高橋外四名ハ日本労働総同盟本部ニ松岡ヲ討  
問レ令後ノ運動方法ニ付協議ヲ爲シ午後十時帰平セルカ但  
令事務部ニ待受ケタル誠首致ニ付二十名ト打合レ上同  
体運動ヲ打切り各自隨意交遊ノ有利ナルヲ説キタルニ意見  
決定セズ其ノ促テ散會セリ

(十一月廿八日)

二十九日朝ニ誠首或工等約四五十名組合事務部ニ参リ  
其ノ后リシガ九時半ニ解散健一外三名ハ突然會社ヲ討  
問シ山口守衛長ト會見シ自分等ハ會社ノ過激ナル労働ニ  
從事シ健康ヲ害セリ然ルニ今回突然誠首セラレ療養ニ  
送ナケレバ會社ノ囑託醫西ノ診断ヲ受ケタレト嘆願シタルニヨ  
リ會社ニ於テハ囑託醫西ニテハ不安ノ懸念アルベケレバ市立十金  
醫院ノ診断ヲ受ケレヨト添書ヲ与ヘタルニ談添書ヲ受取退出  
セリ這ハ若レ會社ニ於テ該要求ヲ容レザルニ於テハ之ヲ名トシ會社  
ノ無情冷酷ヲ一般政工ニ発表シ同情ヲ買ハントシタルカ如シ  
令十時半頃ニ至リ解雇職工等ハ運動費ノ清算等ヲナシ居リ  
シカ松岡駒吉ノ急遽來演アリ大熊庄三郎ヲ同伴シ郵船會  
社參事山脇武夫ヲ訪問シ何事カ交渉シタル事實アリ右ノ重役